

# 謹賀新年



## 亦無岡 (萬多奈能岡)

志波彦神社神門前、杉の大樹が林立する丘陵一帯の景勝。140年前、明治天皇が奥羽巡幸(明治9年)の折、ここからの眺望を愛でられ「亦と無い岡」との御意で名付けられたという。



発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号  
志波彦神社 社務所  
電話 〇二二三六七二六一(一代)  
FAX 〇二二三六五五五三〇  
http://www.shiogamajinja.jp/

『愛しよ塩土の老翁、きこえさせその大和を  
大和はも聴美し、その雲居思遙けし』  
交声曲「海道東征」(北原白秋作詞・信時潔作曲)第二章「大和思慕」の一節である。

昨年十一月、神武天皇の東征神話をもとにした「海道東征」の演奏会が大阪市で開かれた。約七十人のオーケストラと五人の独唱者、それに児童合唱を含む百六十人の合唱団により壮大に演奏され、約一千七百名に深い感動を与えたという。

さて、その第二章。塩土老翁神によって語られる大和の美しさを聞いた神々が、遙かなる東の地へ、憧れを抱くさまが歌われている。

演奏会で上演の意義を解説した都留文科大学の新保祐司教授は、十二月一日の産経新聞正論欄にて「海道東征が覚醒させた建国の魂」と題し、「人々は、それを聴いて、自分という人間が、日本の建国の歴史に精神の深みで繋がっていることに覚醒して、魂の感動を覚えたのである」。更には、「この海道東征がまさに東征して、東京での公演が実現することを強く望むものである。日本人の精神的復活は、ここに決定づけられるであろう」と、結論づけている。

願わくば東征さらに北征して、神武天皇を美しき大和に導いた塩土老翁神が、御自ら永遠に鎮まり座す美しき陸奥の国へも日本人覚醒の響きを届けるべく、我らが東北の音楽関係者を導かれんことを。





# 明治天皇の御聖蹟

志波彦神社 宮司 鍵 三夫

平成二十八年(皇紀二六七六年)の新春を寿ぎ、謹んで御室の弥栄と御国の安泰を御祈念申し上げます。

氏子崇敬者各位には、旧年中、当社の神事・運営に御理解と御協力を賜り、厚く謝意を述べる次第であります。

巻頭既述の通り、本年は明治天皇の北海道・東北巡幸から百

四十年です。明治九年六月二日、九重を発してより翌月二十一日に還幸されるまで、実に五十日間におよぶ巡幸は、戊辰戦役で疲弊した東北の民衆にとって、君民の紐帯を実感すると同時に、精神的な支えとなるものであったことでしょう。

月二十九日に当社を御親拝になられ、藩主奉納太刀をはじめ伝来の什宝・文物が天覧に供されています。御奉迎した初代宮司・落石直亮の恐懼たるや察するにあまりあるところです。

巡幸の還路、明治天皇は函館から御召し艦「明治丸」に御乗船され、船足三日を費やして七月二十日に横浜港にお着きになられました。今日七月第三月曜日となっている「海の日」の艦艫です。

本年は平成八年に「海の日」が施行されてから二十年の節目でもあります。海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」という祝日の根源は、近代日本の礎を築かれた明治天皇の御聖蹟にあったことを我々国民は偲ばねばなりません。

海洋の守護神「鹽竈さま」を奉ずる当社神職一同、年始にあたり氏子崇敬者各位の安寧と弥栄を切に念願し、年頭の辞と致します。

謹みて新年のご祝詞を申し上げます  
平成二十八年 丙申 元旦



# 年頭挨拶

第二管区海上保安本部長

岩 並 秀 一

平成二十八年の初春にあたり、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。また、平素より海上保安業務に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、陸奥国一宮たる「鹽竈さま」は、海上守護をも司る神として、古来より、海上航行や漁業を生業とする人々、また、海上を旅する人々の深い崇敬を

集めてこられました。人々は、航行の安全のご加護を神に祈ると同時に、自らも安全航行の戒めを改めて肝に銘じたに違いありません。

かつて、現在の北浜や海岸通が港であった時代、塩釜港の最奥に位置する神社の社自体が航海者にとっては、港に安全に入港するための道しるべでもあつ

たことでしょうか。私自身、学生時代の航海実習の途次、初めて塩釜港に入った際に、最初に目に飛び込んできたのが、一森山の神々しい緑であったことを記憶しております。

私どもの第二管区海上保安部も、志波彦神社・鹽竈神社を望む港の入り口にあつて、東北全体の海の安全と治安の任に当

たっております。東日本大震災が発生してから間もなく五年目を迎えることとなりますが、今年も引き続き、行方不明者の捜索、海上復興工事の安全対策、地震・津波対策等の震災対応・復興支援に全力で取り組むとともに、海上航行の安全対策、迅速な海難救助、海上犯罪や海上テロの防止等、東北の安全で明るい海の維持に努めてまいります。

引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜れば幸いです。結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。

敬神婦人講 宇仁一美

祭典委員会 和田忠

委員長 ほか委員一同

総代会 鈴木雄一

会長 ほか会員一同

責任役員 阿部久壽

横田善三郎

阿部勘九郎

佐浦弘一

鈴木雄一

宮司 鍵 三夫

志波彦神社 鹽竈神社 代表役員



# 年頭のご挨拶

## 塩釜警察署長 遠藤 敏

新年明けましておめでとう  
ございます。

皆様方には輝かしい新春を  
お迎えのことと心からお慶び  
申し上げます。

また、旧年中は警察行政の  
各般にわたり、ご支援ご協力  
を賜り、心から厚く御礼申し  
上げます。

この度、年頭にあたり筆を  
執らせていただきますことは  
誠に恐縮の限りでございます。

昨年三月二十九日、塩釜警

察署着任早々、志波彦神社例  
祭並遷祀一四〇年記念大祭に  
参列させていただき、厳肅な  
中、執り行われた神事におい

て、管内二市三町の安寧秩序  
のために全身全霊を傾けて取  
り組んでいく誓いを立てたの  
がつい先日のような気がいた  
します。

さて、その後の管内の治安  
情勢について振り返ってみま

すと、上半期は平穩に推移し

たものの、下半期に入ると、  
七ヶ浜町内における殺人死体  
遺棄事件始め凶悪事件が相次  
ぎ、地域住民を驚愕させるこ

ととなり、体感治安の改善は  
果たせなかつたと反省頻り  
あります。他方で犯罪の発生  
件数の減少や検挙件数の増加  
等いわゆる指数治安は改善を  
みることができました。また、

いずれの凶悪事件についても

犯人の検挙に至っております。  
総じて管内の治安は着実に良  
い方向に向かっていると見え  
ます。

これも偏に「鹽竈さま」の  
ご加護と地域の皆様方のご協  
力の賜であると深く敬意を表  
する次第であります。

本年も署員一丸となつて治  
安維持に邁進する所存であり  
ますので、変わらぬご支援ご  
協力を賜りますようお願い申  
し上げます。

結びに、皆様方の更なるご  
健勝とご多幸を祈念申し上げ、  
年頭のご挨拶とさせていただきます。



# 新年を迎えて

## 公益財団法人 佐野美術館 館長 渡邊 妙子

鹽竈さまには、お社に輝く初  
日の出をお迎えのこととお慶び  
申し上げます。

昨秋には、鹽竈神社博物館開  
館五十周年記念の神事に参列さ  
せていただく栄を得、奥州一宮  
としての由緒に深く思いを馳せ  
ました。

「鹽竈」という難しい御社の  
字を何度も手習いしていると、  
太古から人々の命の根源を成す

塩造りに力を尽くされた御神の  
偉大さを強く感じるようになり  
ました。「しおがまさま」と親  
しまれ、尊崇の念を集め、三々  
五々と神殿に参拝する人々の拍  
手の音は澄みわたっていました。

さらに、左右宮の武甕槌神さ  
ま・経津主神さまをお参りしま  
した。深く頭を下げていると、  
奥州古代の激しい戦いの場が走  
馬灯のように浮かんできました。

山野を裸馬に跨り跋渉する奥州  
の部族長たちの腰には、蕨手刀  
のような柄の曲がった刀剣や、  
柄に透かし樋のある毛抜形太刀  
があつたと思われれます。そして、  
鎌倉時代に原本が書かれたと考  
えられている『観智院本銘尽』  
には、「光長」という奥州舞草  
の鍛冶が三寸ばかりの透かし樋  
のある刀三千口を天皇に進呈し  
たと書かれています。戦いを納

め、やがて文化技術の交流が生  
まれた証です。そこには、武甕  
槌神さま・経津主神さまの御心  
があつたに違いありません。使  
い易い毛抜形太刀は京の都で改  
良され、平安時代の近衛府武官  
の腰に備えられるようになりま  
した。

日本刀は世界に比類ない優雅  
な曲線を持っています。この曲  
線、即ち反りは、奥州の戦いの  
中から生まれたと考えられてい  
ます。

命の源である鹽と、強さを背  
景にした和の御神に守護された  
奥州のますますの繁栄を祈り上  
げます。



氏子青年会

会長 千田 忠一

ほか会員一同

節分祭年男男女世話人会

会長 佐藤 武志

ほか世話人一同

志波彦神社 奉仕会  
鹽竈神社

副理事長 小島 邦雄

ほか役員一同

御神田奉齋会

役員一同

鹽竈神社博物館審議委員会

委員一同

# 鹽竈神社博物館 開館五十周年



式辞を述べる宮司

今を遡る五十年前、当鹽竈神社博物館は、「奥州一宮鹽竈神社」にかかわる歴史資料等を保存・収集するとともに、展示公開を通じ、その悠久の歴史を広く伝えるため、昭和四十年に開館しました。

昨日十一月一日をもって開館五十周年の佳節を迎え、同日に記念式典が盛大に挙行されました。

## 記念式典・講演会

当日は市教委から高橋陸磨教育長が列席したほか関係者



六十余名が参列し、鹽竈神社左右宮での奉告祭につづき、グランドパレス塩釜で記念式典が執り行われました。式典に先立ち、渡邊妙子氏（佐野美術館館長）による記念講演「日本刀の魅力」を実施。日本刀に表された日本民族の美意識が平易に説かれました。

が贈呈されましたので、左記に御芳名を紹介します。

△表彰者芳名▽（敬称略）

博物館審議委員

濱田 直嗣

太田 與八郎

毛利 伸

※右、永年審議委員として、

当館の運営に功績大につき

宮城県美術刀剣保存協会

（会長・鈴木俊一）

※右、美術刀剣を愛好する同

会会員は、永年当館の展示

研究活動への協力大につき

## 開館五十周年記念 新春特別展

# 鹽竈神社の刀剣

鹽竈神社には、仙台藩主をはじめ多くの人々により刀剣が納められてきました。その多くは近世・江戸時代に奉納されたもので、仙台藩のお抱え刀工による作品が数多く含まれています。幕藩体制期の抱え工の作品がこれほどまとまった形で残り、かつ制作年・奉納年が明らかであることは



開館テープカット（昭和40年11月1日）

記念図録の発行  
当館が収蔵・保管する資料は実に五千点に及びます。な

全国的にも稀有であり、ひとつ鹽竈神社のみならず、郷土・東北にとつての貴重な文化財であるといえます。

今回は、鹽竈神社博

物館の開館五十周年を記念し、重要文化財ならびに宮城県指定文化財を中心とする主要な奉納刀剣を展示するとともに、刀装具の優品も展示すること



で、郷土の職人の歴史を御紹介いたします。

### ◇会期

平成二十八年一月一日（金）

一月二十四日（日）

午前八時三十分～午後五時

※会期中は無休

### ◇入館料

一般（含大学生）…三〇〇円

※高校生以下は無料

# 第六十八回奉献乾海苔品評会



審査会 一月六日(水)  
 午前十時 第二講堂  
 感謝祭 一月十一日(月)  
 午前十時 左右宮

本年も当社を会場に「鹽竈神社奉献乾海苔品評会」が開催されます。  
 松島湾をはじめとする本県沿岸は、日本有数の上質な海苔生産地として広く知られています。本品評会は、生産技術の発展と生産意欲の向上を目的に、戦後まもない昭和二十三年から始められ今回で六

十八回目。

審査対象となる乾海苔は、十帖一束約三二〇g以上の製品を一点とし、審査委員の厳正な審査を経て受賞者を決定。十一日午前十時から鹽竈神社左右宮において関係者参列のもと奉献感謝祭・表彰が執り行われます。

各表彰のうち優賞者および準優賞者は、御皇室への乾海苔献上という榮譽に浴すること。

また出品された乾海苔は、当日祭務所一階に展示しますので、御参拝の折には会場にお立ち寄りいただき、香り豊かな宮城県産の乾海苔の数々をぜひ御覧ください。

## 祝 節分祭世話人大場喜藏氏 秋の褒章受章

当社節分祭の大場喜藏世話人が昨春秋、公共の利益に貢献した人に贈られる「藍綬褒章」を受章。  
 大場世話人は、永く宮城県

# 節分祭

一月三十一日・二月三日

毎年恒例の「しおがまさまの豆撒き」節分祭！  
 本年は一月三十一日(日)・二月三日(水)のそれぞれ午



の交通安全協会に所属し、市民に交通安全を呼びかける活動を続け、交通事故の犠牲者減少に貢献してきました。現在同協合理事。  
 受章をうけ大場氏は、「大変名誉なこと。これからも体の許す限り地域のお役に立ちたい」と活動継続への意欲を語ります。

女性		男性		年齢	前 厄	本 厄	後 厄
年齢	前 厄	本 厄	後 厄				
37 歳	昭和56年	昭和55年	昭和54年	25 歳	平成5年	平成4年	平成3年
33 歳	昭和60年	昭和59年	昭和58年	42 歳	昭和51年	昭和50年	昭和49年
19 歳	平成11年	平成10年	平成9年	61 歳	昭和32年	昭和31年	昭和30年

## 平成二十八年 厄年に当る年歳

- 後三時から鹽竈神社左右宮において追儺式を齋行し、拜殿前の舞台から袴姿の年男と年女らが「福は内、鬼は外」の掛け声とともに福豆を撒き、皆様の除災と招福を祈願します。
- また当日は、特別に厄祓の福祈祈禱を承ります。
- 年男・年女の参加お申し込みは、以下の世話人方へお申し込みください。
- 節分祭年男年女世話人会  
 △市外局番〇二二△
- ・会長 佐藤 武志 (三六二) 〇〇二八
  - ・佐藤 一臣 (三六二) 七八八〇
  - ・高瀬 聡 (三六二) 六四二〇
  - ・郷家 照夫 (三六二) 四五七一
  - ・小島 勇馬 (三六四) 四八五五
  - ・松本 喜八郎 (三六二) 三二七五
  - ・佐藤 仁一郎 (三六七) 七七七七
  - ・菅原 周二 (三六六) 四一四一
  - ・桜井 ふみ子 (三六五) 九二二八
  - ・鈴木 壹彦 〇九〇(二〇六九) 二〇七〇
  - ・大友 義雄 (三六六) 四一四一
  - ・大場 喜藏 (三六七) 〇九〇六

特別寄稿

拉致問題解決への想い



参議院議員 比例代表(全国区) 山谷 えり子

昭和五十二年十一月十五日、新潟から当時中学十三歳の中学生だった横田めぐみさんが北朝鮮に拉致されてから、三十八年という年月が過ぎてしまいました。

平成十四年の日朝首脳会談で、北朝鮮が初めて拉致を認めた際の小泉訪朝により、同年十月十五日に北朝鮮による拉致被害者五名の方が帰国されました。

あの日、政府専用機のタラップから蓮池薫さん、祐木子さん夫妻と地村保志さん、富貴恵さん夫妻、曾我ひとみさんの五人が下りてこられた光景に、重く閉ざされた扉がやっと開かれたような感覚を覚えたことを昨日のことのように思い出します。

しかし、当時北朝鮮は拉致を最初から認めたわけではありませんでした。何時間にもわたる両国の議論が一向に歩みよりなく、昼休みに控室に

戻った際、安倍官房副長官(当時)は、控室が盗聴されている可能性を意識して、「金正日委員長が拉致に対する国家的関与を認め、謝罪をしないのであれば、平壤宣言への署名を考え直さなければならぬ」と思います。今すぐ帰りましょう」と発言し、これがきっかけで北朝鮮が拉致を認め、五人の帰国へと結びついたのです。

その後、御家族が帰国され、その他の拉致被害者の帰国も次々の実現すると思いが期待をしていたに違いありません。

皇后陛下のおことば

皇后陛下は、平成十四年に五名の拉致被害者が帰国された年の会見で、「一連の拉致事件に関し、初めて真相の一部が報道され、驚きと悲しみと共に、無念さを覚えます。なぜ私たちが、自分たち共同社会の出来事として、この人々

の不在をもっと強く意識し続けることができなかつたかとの思いを消すことができませぬ。今回の帰国者と家族との再会の喜びを思うにつけ、今回帰ることのできなかつた人々の家族の気持ちは察するに余りあり、その一入の淋しさを思います」と仰いました。

空と海の青

帰国された際に曾我ひとみさんは「北朝鮮と日本は、飛行機で行けばたったの二時間足らずでいくことができます。だけど私は、二十四年間助けを求めて、毎日、毎日暮らしていました。…まだ、私の母をはじめ拉致被害者の方々は、あの北朝鮮で月を見ながら、星を見ながら『いつになったら、誰かが迎えに来てくれるんだらう』といつも思いながら待っていると思います。」とお話しされました。

拉致被害者救出のシンボルであるブルーリボン、近くて遠い国の関係である日本と北朝鮮の間で、空と海の青(ブルー)が国境無しに続き、拉致被害者ご家族が空を見上げて再会を思っていることを意味しています。

一日も早い解決のため 私が国会議員を志した大き

な理由の一つが、拉致問題の解決でした。家族会、救う会の皆さんと、悔しさ、怒り、淋しさを胸に集会や街頭での署名活動など、どれほど長い年月、行動を共にしてきたことでしよう。「対話と圧力」「行動対行動」の原則をもとに、昨春に日朝政府間協議を再開し、一年半が過ぎました。担当大臣として、今年五月に訪米した際には、司法長官や

国連の事務副総長らと意見交換をし、ニューヨークでシンポジウムも開催いたしました。国際社会で拉致問題の解決を求める機運が、これまでになく高まってきております。拉致問題担当大臣を離れても、引き続き一日も早い被害者全員の帰国のために、国民の皆様とともに心を砕きながら、戦っていく所存です。

新嘗祭 齋行

一年の収穫を大神様に感謝する新嘗祭(産業振興大祭)が十一月二十三日、氏子崇敬者五十三名の参列のもと御両社において盛大に斎行されました。

当日は祭典と平行し、御神田で収穫された米や地場産品を満載した奉曳車を曳いて御神前にお供えする「初穂曳」を実施。

あいにくの雨天でしたが、老若男女の氏子約八〇〇名の奉仕を得て一森山の麓を出発すると、奉曳車は塩竈市内を奉曳され志波彦神社大鳥居の前まで曳き上げられました。奉仕者は一人ひとり、各種の産物を抱え御両社の御神前に大切に奉獻。



境内まで曳き上げられた奉曳車

### 別宮拜殿に 四神旗奉納さる

鹽竈神社別宮の拜殿に飾立  
されている四神旗は、故菅原  
周一元責任役員が典子夫人と  
ともに平成十二年に奉納した  
もの。

永く殿内を装飾してしまし  
たが、経年とともに綻びが目  
立つようになったため、今回、  
夫人と御令息の宏和氏・宏明  
氏により補修のうえ改めて奉  
納いただきました。

去る十一月二十八日、奉納  
奉告祭を夫人以下御参列のも  
と齋行。装い新たになった青  
龍・朱雀・白虎・玄武の神旗  
がはためくなか神事が行われ、  
宮司より感謝状・神納書・記  
念品が授与されました。



### 講社だより

去る十月十日から十二日にかけての三日間、鹽竈講社  
大祭が盛大に齋行されました。齋行にあたっては、県内  
各地のほか、全国から多くの講員が参集されました。  
その折、永年の継続講員に対し御神前にて表彰状と記  
念品が贈呈されましたので、御芳名を紹介致します。  
(敬称略)

#### 平成二十七年年度継続講員表彰者

- ◇八十年表彰
  - 中嶋 守夫・佐藤 民恵
  - 相沢 清治・相澤 正利
  - 鈴木 満・吉田 茂
  - 加藤 壽治・紀野國 正勝
  - 星 兵喜・太宰 誠一
  - 星 隆夫・星 茂
  - 鈴木 信也・鈴木 吉雄
  - 鈴木 久・鈴木 つい子
- ◇七十年表彰
  - 星 清勝・福岡 貞男
  - 大河原支部(以下四名)
    - 高橋 賢一・高橋 せつ子
    - 齋 一志・高橋 義昭
  - ◇六十年表彰
    - 松田 任弘・高橋 綾子
    - 阿部 利夫・三浦 哲雄
    - 大河原支部(以下三名)
      - 吉田 稔・木村 弘幸
      - 渡辺 照夫
  - ◇五十年表彰
    - 藤井 昇・千葉 春夫
- ◇四十年表彰
  - 山岸 さえ子・伊藤 薫明
  - 清野 義幸・山内 孝彦
  - 鈴木 廣治・中野 壽子
  - 大河原支部(以下三名)
    - 高橋 正治・大庭 栄子
    - 鈴木 信助
  - ◇三十年表彰
    - 黒沢 テルヨ・鈴木 裕
    - 金子 善晴・小畑 武
    - 橋浦 春子・星 誠治
    - 齋藤 フユコ・佐藤 貴久
    - 佐藤 松夫・渡辺 多喜子
    - 佐浦 弘一・星 喜美夫
    - 山田 茂男・鈴木 美雄
    - 青木 靖・兄弟靴店
    - 相原園(相原惟志)
    - 大河原支部(以下一名)
      - 山田 ミチキ
    - ◇二十年表彰
      - 麻喜 リツ子・福村 仁一郎
      - 中野 崇一・平山 俊行
      - 石川 正見・高鷹 厚
  - ◇十年表彰
    - 大槌支部(以下一名)
      - 井田 寿子
    - 大河原支部(以下二名)
      - 今野 哲雄・高橋 今朝信
    - 佐々木 紀子・仙石 みさき
    - 牛来 学・昌浦 哲也
    - 高橋 佳子・上田 直史
    - 渡邊 善浩・藤井 貴志
    - 菊池 弘・(ゆかなたに)
  - 及川 暉子・村上 敬一
  - 早坂 笑子・三升 彰
  - 齋藤 茂・星 喜久子
  - 加藤 勝・青山 久夫
  - 加藤 正人・星 養之助
  - 後藤 忠男・岩本 昭助
  - 阿部 義正・阿部 武
  - 岩出山講(以下一名)
    - 栗生 貴之
  - 塩竈報恩講(以下一名)
    - 郷家 照夫
  - 大河原支部(以下三名)
    - 佐藤 光雄・木村 英雄
  - 小室 利平
  - 大槌支部(以下一名)
    - 里館 協
  - 城南会(以下一名)
    - 堤 良子
  - ◇二十年表彰
    - 古川 孝幸・及川 三喜男
    - 八巻 登和子・石川 博嗣
    - 板沢 英樹・関口 洋子
    - 佐藤 ふくよ・原 昌弘
    - 橋本 務
    - 大河原支部(以下二名)
      - 今野 哲雄・高橋 今朝信
    - 大槌支部(以下一名)
      - 井田 寿子
    - 洗心講(以下九名)
      - 綱田 仁・佐藤 裕菜
      - 佐藤 遥・高橋 芳弘
      - 阿部 恒久・根本 松二
      - 佐々木 健次・坂本 兼也
      - 渋谷 みよ子
      - 城南会(以下三名)
        - 角田 盛人・小野澤 憲一
        - 平賀 勝彦

ご結婚おめでとうございませう

九月

東京都	小島 潤
石巻市	鈴木 華恵
東京都	小川 浩一郎
仙台市	松原 希
遠田郡	櫻井 樹
遠田郡	松田 梨佐

静岡県	大場 俊直
青森県	山一 都子
茨城県	石渡 正也
仙台市	齋藤 由紀
福岡県	五十嵐 光治
多賀城市	鈴木 真希子
秋田県	立山 昌道
仙台市	菱沼 すみれ

大学講座で 雅楽の講義

十月二十六日、宮城教育大 学(仙台市青葉区)の講座「日 本音楽史」で、当社神職が雅 楽の講義を行いました。

同大教授・小塩さとみ氏(音 楽学)の招聘をうけ訪問した 神職三名は、笙・箏・笛の 演奏を交えつつ、雅楽の譜面 の見方、楽器の構造や合奏上 の役割などを講義。

受講者は音楽科を専攻する 学生が中心で、はじめて身近 にする雅楽の音色に熱心に 耳を傾けていました。



器ごとに役割があること、拍 子にも様々な種類があること、 調によって季節感があること など私の知らない雅楽の一面 をたくさん学べて非常に楽し かった」と感想を語っていま した。

十月

多賀城市	月浦 広大
東京都	林 真智子
大阪府	鹿野 祐介
福島県	生田目 皆美
塩竈市	中條 剛
鳥取県	上平 理恵
仙台市	柏 亮
塩竈市	新田 直子
登米市	浅野 祐太
岩手県	岩館 みなみ
仙台市	今野 弘之
大崎市	梁川 和恵
仙台市	佐藤 翔一
仙台市	五島 暢子
埼玉県	山岸 初志
安田	衣里
登米市	村上 仁則
多賀城市	小林 裕子
多賀城市	星 洋平
福岡県	森 玲
塩竈市	鈴木 智
仙台市	今野 奈津子

栗原市	飯塚 仁
栗原市	高橋 智子
塩竈市	大和田 幸広
東松島市	三浦 淳子
塩竈市	奥田 大介
石巻市	佐藤 裕子
長野県	村松 直幸
山形県	佐々木 直
石巻市	石上 智夫
愛知県	長坂 千恵美
大崎市	高橋 司
仙台市	横田 千晶
塩竈市	品川 一行
栃木県	佐藤 貴子
塩竈市	土井 貴憲
気仙沼市	千葉 杏奈
福島県	佐藤 大二郎
仙台市	阿部 恭子
青森県	飯田 恒司
白石市	林 華美
群馬県	江原 実
東松島市	齋藤 翠
宮城郡	大井川 沢良
仙台市	熊谷 秋乃

十一月

宮城郡	上原 徳善
埼玉県	村上 佐織
岩手県	千葉 康広
秋田県	天野 希
熊本県	吉脇 司
仙台市	武田 美貴子
塩竈市	星山 勝己
仙台市	川合 ゆう子
塩竈市	泉 俊輔
黒川郡	鈴木 藍
大阪府	竹村 英生
仙台市	籠谷 朋子
千葉県	玉井 公浩
仙台市	鈴木 紀子
黒川郡	川村 友介
石巻市	木村 有希
仙台市	新井 知哉
東京都	小川 明子
秋田県	山田 康太郎
仙台市	阿部 友理
宮城郡	高橋 雄平
仙台市	小野寺 美帆

(以上四十一組・敬称略)

参拝記録

九月

- 二日 中西正幸氏
- 七日 國學院大學指定実習Ⅱ受講者 五名
- 八日 福島県 浮島神社 太々神楽保存会 三十五名
- 十二日 関西大学 楠見晴重学長
- 十四日 皇學館大学 文学部国文学科学生 十名
- 十六日 (株)ワイエス
- 代表取締役社長 山中保樹氏 以下二十五名
- 十七日 塩釜商工会議所「みなとブランド推進委員会」
- 地域資源勉強会参加者 六十名

二十五日

二十九日

- 大日本水産会
- 白須敏朗会長・長岡英典常務理事 ほか六名
- 高砂商工会議所 渡辺健一会頭
- 高砂市観光協会 信原智彦会長
- ナラヤナ仙台 二十二名

十月

六日

十一日

二十六日

二十八日

- 東京都 阿佐谷神明宮 齋藤博明宮司 以下三名
- 良陽会 四名
- 石都々古和氣神社・塩釜神社
- 吉田英高宮司 以下氏子総代二十二名
- 沖繩県 南城市女性会 二十名
- 十一月
- 五日 定例別表神社社会出席者 十名
- 十五日 愛知県 本郷山寶聖閣 中央道場 百十名
- 十八日 大崎市 志波姫神社・鹽竈神社
- 工藤順司宮司 以下氏子総代二十名
- 佐賀県 祐徳稻荷神社
- 鍋島朝寿権宮司 ほか責任役員七名

東北式内社顕彰会  
総会・講演会を開催

当社内に本部を置く、東北式内社顕彰会は昨年九月二十六日、多賀城市の東北歴史博物館で総会を開催しました。出席者十四名。

また総会にあわせ、同館研究員の柳澤和明氏（日本考古学）による講演会「陸奥国における貞観地震・津波被害と復興」を実施。柳澤講師には、貞観十一年（八六九）に東北地方を襲った巨大な津波被害

の実態と、国府多賀城が復興していく過程を、最新の発掘調査成果をまじえ詳細に解説いただきました。



神門内敷石工事始まる

現在、鹽竈神社において、神門内に敷石を敷設する工事に着手しています。

工事は二期に分け、別宮・左右宮へと延びる参拝道を、拜殿向拜幅と同じになるよう

拡幅する工事（第一期工事）は昨年内に竣工。本年二月、節分祭を終えるのを待って、門内全域に敷設する第二期工事に取り掛かります。

敷石はいずれも良質の白御影石を使用し、参拝道は四五

三mm×九一五mm、それ以外は六〇〇mm四方の寸法になっています。参拝道の敷石下には排水溝を埋設しているなど、今回の施工により御参拝の利便が向上されるものと考えています。

工事終了まで、氏子崇敬者の皆様には参詣の折、御不便をおかけしますが、御理解と御協力のほどお願い申し上げます。

銅板奉納者芳名

昨年九月〜十一月にかけて、多くの方々より屋根葺き替えのため銅板を奉納いただきました。（敬称略）

九月

- 北海道 吉田 康彦
- ほか二〇名

十月

- 千葉県 石井 理恵
- ほか二九名

十一月

- 大分県 高司 時男
- ほか二三名



大 海 安 漁 上 産 満 安 祈 足 全 願	三月 十日 十七日 二十九日	帆 手 神馬塚慰霊祭 志波彦神社例祭	二月 八日 十一日 十七日	節 紀 旧 祈 年 元 正 分 祭 祭 月 祭	一月 三十一日 十四日 十一日 五日 三日 二日 一日	節 松 成 鏡 元 大 歳 分 明 人 始 旦 饌 祭 祭 祭 開 祭 祭 祭	毎月 一日 六日 十日 二十九日	朔 木 神 社 月 次 祭 御 釜 神 社 月 次 祭 志 波 彦 神 社 月 次 祭	祭 事 曆 (一月から三月まで)	家 五 国 内 穀 家 安 豊 安 全 穰 泰
----------------------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------	-------------------------------	--	---	------------------------------	---	------------------	----------------------------------

### 授与品案内

申歳限定！  
申歳開運守



本年は丙申歳。当社では開運招福の御利益をいただく「申

歳開運守」を一年限定で授与いたします。

十二支の「申」。動物であてられる猿は、知恵深く社交性があることから、幸運をつかむことのできる天徳をもっていとされます。

また、お馴染みの「うまくいく御守」には申歳に限り、特別に猿の飾り金具をつけました。

氏子崇敬者各位には、大神様の御加護を受けられ、一年御清福で過ごしいただきます様、御案内申し上げます。

#### 申歳開運守

初穂料 金一、〇〇〇円也

うまくいく御守

初穂料 金一、〇〇〇円也

### 文芸欄

古りし塀越えて明るき真弓の実  
小春日や物置掃除の老夫婦  
うつし世の風の華やぎ鳥渡る  
月光のもるるテーブルワインあり  
荒磯の波はたひらに冬落暉  
池の端の石路に夕風一の宮  
隠沼に波立つことも雁のころ  
群青の空枯蘆の漂える  
押入れの中まで入れる小春かな  
水澄めり表参道のおかめ笹

辻田 よし子  
武山 トキ子  
渡辺 智賀  
佐藤 みね  
太田 サチコ  
櫻井 京子  
佐々木 和子  
神野 礼モン  
大友 セツノ  
山田 桃晃

### 謹みて新年の御祝詞を申し上げます

平成二十八年 丙申 元旦



志波彦神社 鹽竈神社 宮司 綱宜 三夫 鍵次郎

野口 博司 大瀧 優博 近藤 道教 小野 雄大 永野 重和 鈴木 成文 前川 慶太 菅原 重忠 菊池 重忠 小栗 雅仁 藤澤 瑞朗 柏木 岳史 浅野 満昭 三品 博隆 菅原 治彦 菅生 貴史 栗生 祐太 菅野 賢一 笹木 友紀 高橋 郁弥 西郷 明日香 菊地 麻里奈 阿部 麻都華 渡邊 紗希 佐藤 亜里紗 山口 里夏 作間 夏美 嶋崎 里紗

**糸巻**

明けましておめでとう御座います。本年も、充実した紙面を皆様にお届けできるよう、編集技術の向上に専心してまいります。

(岳)

**人事異動**

新任(十二月一日付)  
社務員 西塚 里絵

退職(十月二十四日付)  
社務員 福岡 リウ子

(十一月三十日付)  
巫女 安住 早耶香

(十二月二十日付)  
巫女 皆川 佑奈

巫女 松本 ゆりか  
森 早央里  
伊勢 忠弘  
伊勢 彰博  
高橋 賢  
佐藤 勝彦  
阿部 裕一  
西塚 里絵  
村上 恵一  
板宮 德行  
松田 和子  
伊勢 章子

博物館 学芸員 茂木 裕樹

ほか職員一同